

令和8年度 常葉大学・常葉大学短期大学部  
第1回FD・SD研修会（全学共通研修会）報告

日時	令和8年5月27日（水） 15時10分～16時30分
研修内容	研究倫理について
講師	[①人社系] 広島大学名誉教授・東北大学名誉教授 羽田 貴史（オンライン講演） [②医療系] 信州大学医学部 公正研究推進講座 助教 樋笠 知恵（オンライン講演）
場所	常葉大学静岡草薙キャンパス A201 教室 静岡瀬名キャンパス 大会議室 静岡水落キャンパス 207 教室 浜松キャンパス 601 教室 ※①人社系の場合、上記会場での参加またはオンライン参加 ②医療系の場合、オンライン参加
出席者数	常葉大学静岡草薙キャンパス 184 人 静岡瀬名キャンパス 21 人 静岡水落キャンパス 71 人 浜松キャンパス 121 人 合計 397 人

※出席者数には、オンライン（Zoom）による視聴者、短大部教職員も含む。

令和8年度第1回FD・SD研修会（全学共通研修会）を開催した。

本年度第1回は「研究倫理」を研修内容として、人社系および医療系の2種類の講演を開催した。人社系においては広島大学・東北大学の羽田貴史名誉教授による講演、医療系においては信州大学医学部公正研究推進講座の樋笠知恵助教による講演を実施した。

人社系では、不正事案の多い「盗用」に関するお話から、最近問題となっている不適切なオーサiershipやデータ改ざんのお話があった。また、共同研究における管理不備が不正の発生原因として挙げられ、告発から最終判断まで平均6.4年かかるとの点も共有された。補食ジャーナルという新しい課題についても言及され、低品質な論文が掲載されるジャーナルが増加していることが報告された。

医療系では「近年の研究不正の動向とその対応」をテーマに、研究不正の基本概念から具体的な事例分析、特定不正行為（FFP）と疑わしい研究行動（QRP）の区別、研究者としての注意義務、そして知識不足と規範意識の欠如という主要な発生要因についてお話があった。

共通の話題としては、生成AIを用いた研究における新たな問題点・注意点が挙げられ、日本の大学における生成AIの利活用に関する規制やルールが不十分であることを指摘し、研究公正の維持に向けた知識の重要性と、研究環境全体での適切な仕組みを構築する必要性が強調された。

今後も、研究倫理研修を継続し、最新の動向や知識等の情報共有を推進するとともに、適切なコミュニケーションを通じて、研究不正を未然に防ぐ環境整備を徹底する。